令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【土合中】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)多様な背景や個性をもつ人々に対する理解力の向上 (2)課題を設定し、根拠をもって思考・判断・表現する資質・能力の向上
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)多様性理解をテーマとした人権感覚を育てる教科横断的な授業を実践し、それを教員が相互に見学することを通じて学校全体で人権への意識を高める【各学期の中で1回以上】 (2)課題提示→個人思考→対話（言語活動）→再構築→表現などの対話的アプローチを活用した協働的な問題解決学習の基礎となる学習課題を提示する。【各単元末】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語、数学、英語どの科目も全国平均・埼玉県平均を上回る結果であった。国語では、「言葉の特徴や使い方」の項目が平均を上回っていた。しかし、「話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く」問題に課題が見られることが分かった。数学では、「具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる」という項目が特によくできていた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	全体的に基礎学力が定着してきていることが分かる。国語では設問の状況から、文章全体の構成や内容の流れを捉える力は身に付いており、書かれている事柄を整理しながら読むことはできている。一方で、相手の立場や状況を踏まえて伝え方を工夫したり、自分の考えを根拠とともに説明したりする活動が十分ではなかったことが考えられる。数学では、更なる学力向上を目指して、知識技能を活用して課題を解決する力や、考え方を数学的に表現する力を育成する必要がある。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	・教育委員会から講師を招聘し「人権教育の視点を踏まえた授業作り」をテーマに研修を受けた。 ・人権感覚を育てる教科横断的な授業を実践し、それを教員が相互に見学している。 ・課題提示から個人思考、対話活動、再構築、表現へとつなげる協働的な問題解決学習を学期に1回程度実施した。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	・生徒は対話を通して多様な考えに触れ、自らの考えを深めようとする姿がみられた。一方で、全国学力・学習状況調査では、記述による説明を求める問題の正答率向上には十分につながっておらず、自分の考えを筋道立てて表現する力には課題が残った。今後は記述する機会を継続的に設定し、表現力の向上を図りたい。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）